

### 3-13. 下小谷地区

#### 1. 地区の概要

##### (1) 位置・人口等

###### ■位置

下小谷地区は、益城町の北東部に位置し、東に上小谷地区、西は田原地区、南は堂園地区に接しています。本地区西側には熊本空港に通じる県道堂園・小森線が通っています。

本地区は、三方を小高い丘に囲まれています。また、地区中央には高谷川が流れており、南側に流れる木山川へ合流しています。なお、木山川は本地区南側で大きく湾曲しており、また、高谷川は川幅が狭く、大雨時の氾濫が心配です。

本地区の南側は比較的平坦ですが、北側に向かうにつれて高くなる傾斜地となっています。



図 下小谷地区

###### ■人口等

平成 29 年 3 月末日の住民基本台帳によると、下小谷地区の人口は 287 人、世帯数は 87 世帯となっています。

平成 25 年から 29 年までの 5 年間の人口、世帯数の推移をみると、震災前には、人口は緩やかに減少し世帯数は緩やかに増加しています。しかし、震災後は、人口、世帯数ともに減少しています。

表 下小谷地区の人口推移（平成 25 年～29 年）

	平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年		平成 29 年	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
下小谷	326	88	327	88	317	90	314	92	287	87
(H25 を 100 とする指数)	100	100	100	100	97	102	96	105	88	990

資料：各年 3 月住民基本台帳人口

## （２）被害状況

熊本地震後 1 回目の住家の被害認定状況をみると、本地区では住家の 28%が「全壊」又は「大規模半壊」となっており、約 3 割の家屋に被害が発生していることがわかります。

このため、平成 29 年 10 月時点において、家屋が解体され一部で更地（空地）の状態になっているところもありますが、建物の新築も進んでいます。

表 津森校区内大字別被災状況（住家）

	住家					
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	無被害	計
大字寺中	16	6	41	71	1	135
大字田原	31	12	42	63	1	149
大字小谷	28	30	47	92	2	199
下小谷	13	13	27	41	0	94
大字杉堂	47	8	20	22	4	101
大字上陳	40	12	25	38	0	115
大字下陳	11	11	26	95	0	143

## （３）地区の課題

- ・人口、世帯数ともに震災後で減少傾向にある。
- ・公共交通及び公益的施設が少なく利便性に課題がある。
- ・地区内には幅員 4 m未満の狭隘な道路が多い。

## 2. 地区の基本方針

下小谷地区は、熊本地震による家屋の被害が約3割に達しており、人口は震災前の1割近く減少しています。

地区西側には熊本空港へのアクセス路である県道堂園・小森線が通り、熊本空港に最も近い地区と言えます。ただし、県道堂園・小森線は、急カーブが多く、歩道も整備されていないため、事故の危険性が指摘されています。

地区内を木山川、高谷川が流れており、ともに過去に氾濫した経緯があります。特に地区を縦断するように流れる高谷川の上流部には砂防ダム等が整備されていますが、既に土砂が堆積し、護岸は震災によって亀裂や崩壊が生じた箇所が散見されます。

また、全国的な少子高齢化や空き家問題、農業の従事者・後継者不足などの問題が震災を契機に顕出し、将来にわたって持続可能なまちづくりが求められています。

このため、ハード・ソフトの両面から安全・安心の暮らしを維持していくまちづくりを進め、空港に近いという立地を活かし、若い人が住み、子どもたちの笑顔が絶えない持続可能なまちづくりを目指します。

### 【まちづくりの目標】

**“未来にはばたけ 空の玄関 下小谷 ”**

### 3. 避難路・避難地の計画

#### <避難路>

避難路については、町道下小谷線の北端は幅員が狭い上にでかつ行き止まり道路となっており、緊急車両の通行が困難であるため、避難しやすく、かつ緊急車両の通行などもしやすくなるように、拡幅整備します。

表 避難路の整備の概要

路線名等	整備内容	整備の内訳			概算 事業費 (千円)
		延長	幅員	面積	
		(m)	(m)	(m <sup>2</sup> )	
町有道路	地区公共施設(避難路)	60.0	4.0	240.0	10,000



## 小谷地区【4 m】

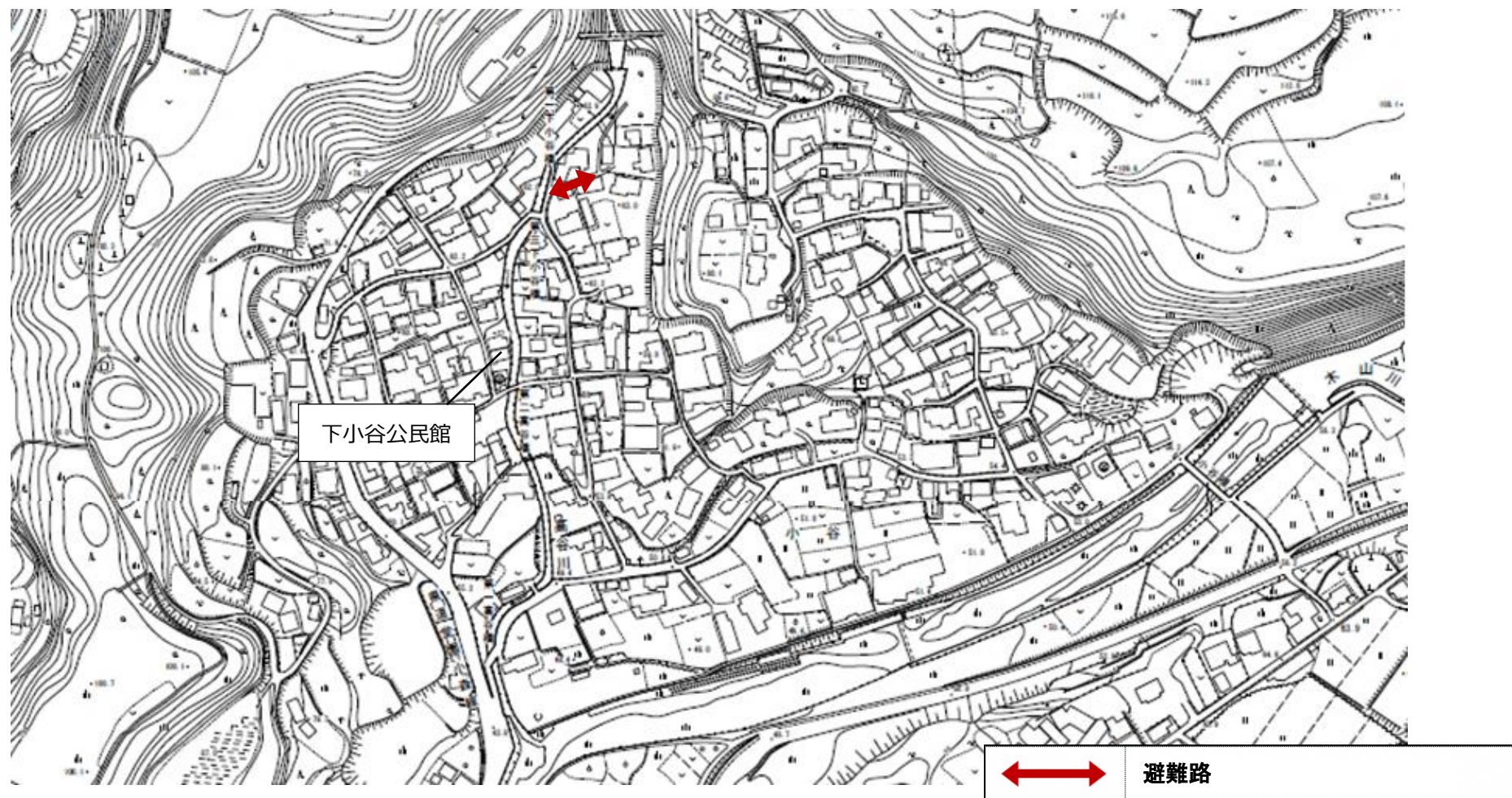


図 避難路計画図